

## 学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告（平成 28 年 3 月）

報告者氏名・所属	水上 丈実・教職大学院（旭川校）	
研究プロジェクトの名称	地域に貢献する人材育成のための大学院生・学生の授業力向上プロジェクト —北海道教育大学におけるマイクロティーチングの開発—	
プロジェクト担当者 （氏名・所属・職） ※代表者に○を付すこと	○水上 丈実・教職大学院（旭川校）・教授 藤川 聡・教職大学院（旭川校）・准教授	
プロジェクトの概要等		
<p>本プロジェクトは、本学が、教員養成機能における北海道の拠点的作用を果たすため、教員に最も必要な授業力の向上を目指すことを目的とする。</p> <p>現在、実際の授業実践を行う場は、学部においては教育実習しかない。また、教職大学院においても実地研究の中で、幼稚園・小・中学校などの現場にしかない。</p> <p>そこで、本教職大学院では、授業の中でも、模擬授業を「導入・展開・整理」などに分割し、その中から目的に応じて一部分を切り取り、効果的に短時間で多くの学生が模擬授業に取り組むことのできる「マイクロティーチング」に着目し、実践報告と教育効果の検証を行っている。しかし、それらをさらに発展させる上で、ソフト面及びハード面において様々な課題を抱えている。</p> <p>本プロジェクトでは、先行研究を分析、再構成し、本学における効果的なマイクロティーチング・カリキュラムを開発し、大学院や学部の各教科等の学部の授業でも、模擬授業やマイクロティーチングが手軽に行える環境整備（マイクロティーチング教室の常設）」を行い、近い将来、教壇に立つ際に最も必要な授業力の育成を目指す。</p> <p>現在、次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会では、論議が進んでいる。その中核にあるアクティブ・ラーニングや道徳の教科化などを体現するためにもその授業像を明確にするためのマイクロティーチング（模擬授業）が可能となるシステムづくりを進めたい。</p>		
進捗度	1	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味
(進捗度が 3 若しくは 4 の場合、問題点等の理由を記入願います。)		
進捗状況		
【平成28年度】		
<p><u>1 マイクロティーチングが効果的に展開できるカリキュラムの開発</u></p> <p>近年、北海道教育委員会をはじめ、各都府県や政令都市の教員採用試験では、模擬授業が行われる。つまり、新卒段階から実践的な指導力、端的に言えば授業力を求めていると言える。それらに対応するためには、その授業力の育成を実習や実地研究のみに求めるのではなく、大学・大学院においても、演習や事例研究の中で授業力育成が行われるカリキュラムを開発しなければならない。そこで、本年度は、教職大学院授業開発分野の選択科目「子どもの学びを拓く授業づくり」の中でマイクロティーチングを取り入れた授業づくりを行った（資料1）。本年度の授業による、成果と課題の詳細については、現在分析中であるが、この授業の中で、4回のマイクロティーチングを行ったが、明らかに、指導案の内容も、マイクロティーチングにおけるパフォーマンスも向上している。</p>		
<p><u>2 専用教室「マイクロティーチングルーム」の整備</u></p> <p>現在、教職大学院においては、授業開発分野の「子どもの学びを拓く授業づくり」の中で、マイクロティーチングを定型化し、毎年、改善充実させて実践している。しかし、複</p>		

数の方向からビデオをセットし、録画した画像をその場で再生できる教室はなく、毎回の授業準備に時間と労力を要している。授業会場で録画した授業を素早く再生し、ストップモーション方式により討議したくても、そのような設備環境は整ってはいない。

そこで、本年度の予算すべてを使い、T104 教室に固定のカメラとマイク（教室前方から児童生徒側を録画録音、教室後方から指導者側を録画録音）を設置し、2画面に分けて録画・録音できるネットワークディスクレコーダーシステムを設計し、12月には完成させることができた。設計には、旭川校財務グループの井上幸恵氏が親身に相談にのっていただき年内に完成することができた。

その後、教職大学院・授業開発分野のゼミにおいて、操作説明会とマイクロティーチングの試行を行うことができた。来年度の授業から本格的な活用を行う。

#### 今後のプロジェクト計画

##### 平成29年度

- 前期
  - ・常設のマイクロティーチングルームを使った実践の開始
  - ・他の教職大学院の授業での実践（例えば、「道德教育の開発」など）
- 後期
  - ・マイクロティーチングルームの使用を学部などに開放
  - ・教育効果のデータ収集
  - ・学会発表及び論文投稿
  - ・マイクロティーチングの方法をテキストにまとめる（29年度の進捗状況をみて内容を検討）

##### 平成30年度

- ・常設のマイクロティーチング室を使った実践の検証
- ・教育委員会との連携による活用（初任者研修会等での活用）
- ・研究のまとめ
- ・学会発表及び論文投稿

#### 研究成果の概要

マイクロティーチングが教職大学院のストレートマスターに普及しつつあり、他の大学院生や学生の前で、授業をすることが自然にできるようになってきている。このことは、大学院を修了し、教壇に立った時に、授業を抵抗なく公開できる教師を育てていることにもつながっていると考える。また、初めは、教師の態度、立ち位置、声の大きさや活舌などパフォーマンスに着目していたものが、回を重ねる毎に、発問や指示の内容具体的な活動のさせ方、問題や課題の提示の仕方や内容にまで着目できるようになり、その向上ぶりに驚くことも多くなった。

水上は、平成28年7月に香川県高松市で行われた日本カリキュラム学会第27回大会シンポジウムにおいて、「アクティブ・ラーニングを効果的に取り入れた教育課程編成の実際」と題して発表させていただいた中で、マイクロティーチングについても紹介させていただき、特に、現場の小中高校の教員から多くの賛同を得た。なお、藤川は、国際会議 8th Pacific-Rim conference on Education において、改善したカリキュラム及び設計したマイクロティーチングルームを発表する予定であったが、会議そのものが中止となり、発表できなかった。

#### 教育現場や地域で活用可能な成果等

今後のプロジェクト計画にも掲載したが、北海道教育委員会や旭川市教育委員会の初任者段階研修会等にも、マイクロティーチングルームを開放することで、若手教員の資質向上に資することができると考えている。

また、マイクロティーチングの方法をテキストにまとめ公開することで、教育現場の研修の質的向上に資することができる。

研究成果の公表実績

【著書】（著者、書名、出版社、発行年等）

【学術論文】

藤川聡・水上丈実・ナッタナン ムルサラドゥ・サンチラット ナンサアング「マイクロティーチングの教育効果に関する一考察—教職大学院における協同学習の事例より—」北海道教育大学紀要(教育科学編)第65巻第2号 平成27年2月 P201～211 (資料2)

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

- 1 藤川 聡 日本カリキュラム学会第25回大会 学会発表「マイクロティーチングによる授業力向上カリキュラムの検討」 平成26年7月 関西大学 参加者数約700名
- 2 藤川 聡 日本カリキュラム学会第26回大会 学会発表「マイクロティーチングを用いた授業力向上カリキュラムの実践—教職大学院における学部卒院生と現職院生の共同的な学び—」 平成27年7月 昭和女子大学 参加者数約800名
- 3 水上丈実 日本カリキュラム学会第27回大会 シンポジウム「アクティブ・ラーニングを効果的に取り入れた教育課程編成の実際」 平成28年7月 香川大学 参加者数約600名

【テキスト、報告書、研修資料等】（名称、発行年月日、発行部数、配付場所、配布者数等）

添付資料	<資料1> 「子どもの学びを拓く授業づくり」シラバス <資料2> 「マイクロティーチングの教育効果に関する一考察—教職大学院における協同学習の事例より—」
ダウンロード可能なドキュメント	<a href="https://jugyo-asahi-hue.jimdo.com">https://jugyo-asahi-hue.jimdo.com</a> 今のところ未掲載，4月から随時掲載していきます。
問い合わせ先	氏 名： 水上 丈実 （教職大学院旭川校） 電 話： 0166-59-1426 E-mail： mizukami.takemi@a.hokkyodai.ac.jp